

キリスト教概論を受講して 大学の授業って、なに!?

塩谷 直也 大学宗教主任 × 武田 夏子 法学部2年

授業ノートは宝物

——キリスト教概論を受講して、武田さんにとってどのようなことが印象に残っていますか？

武田 毎回、「今日はどんなお話が聞けるのだろう」とわくわくしながら授業を受けていました。授業を通してこれまであまり意識したことなかったテーマと向き合い、一つの物事に様々な見方や考え方があることに気がつくことができました。発見がたくさん詰まったこの授業ノートは、受講から1年経った今もとても大切にしています。
塩谷 大学時代にいいソートを作ると、それは一生モノになりますね。授業では、聖書は人々に数千年間にわたり愛され、そこに人間の本当の生き方やいのちのあり方が描き出されていると伝えてきました。人間は目に見えるものだけを頼りに生きていけるかもしれません。でもそれだけだと自分や他人を傷つけてしまいます。学生には目に見えるものだけでなく目に「見えないものを見る力」、「見えるものを通して見えないものを見る力」を養ってほしいと願ってきました。

悩み・苦しみはあなた一人のものではない
塩谷 授業出席カードの裏面に自由に質問や感想を書いてもらうのですが、そこには好きな食べ物やテレビ番組といったものから深刻な悩みに関するものまであります。なかには個人的に話したほうがよいものもありますが、授業で共有できるものはそうします。そ

のことによって悩みや苦しみが当人だけでなく、私も含めて他にも同じように悩んでいる人がいるとわかってもらいたい。人というのは自分が必要とする言葉を探すものです。自分のモヤモヤした感情を表現する言葉や、「これが道だよ」と教えてくれる言葉を探しますが、今日では情報が氾濫しているため、逆さに自分の思いを言葉にすることが難しく、だからこそ厳選された聖書が持つ言葉の力はとても大きいですね。

武田 私は悩みや不安を抱えたと視野が狭くなり自分を見失ってしまうことが多かったのですが、授業を受ける中で今までは説明がつかなかった感情が腑に落ちるようになり、冷静に自分を見つめ直せるようになりました。授業では「自分が死なないために」「周りの人を死なせないために」「もしも逝ってしまったら…」と題した自殺予防教育も行われ、いのちや死について学びました。

塩谷 当初は「自分が死なないために」と「周りの人を死なせないために」を講義していたのですが、徐々に家族や友人を亡くし、そのことを誰にも言えずにいる学生がいることがわかってきました。そこで「身近な人が死んでしまった時」を取り上げるようになってきました。この授業で一番伝えたいのは、「生きるとはどういうことか」です。「生きる意味がわからなければ生きていけない」といった声を聞きますが、私も含めみんな生きる理由がわからない中で、もがき苦しみながら生きているのではないのでしょうか。人間は、生きなければならぬというより、生きることがゆるがされている。その世界に触れてほしいですね。

学生も教師も人間です

——授業を受ける前と後では、もの見方や行動面で変わったことはありましたか？



武田 「見返り」というものについて今一度考え直す機会となりました。純粋な善意のつもりで相手にしていることも、心のどこかで「自分の気持ちに応えてほしい」といった、何らかの形での見返りを求めている面が人間にはあるのだなと考えるようになりました。例えば母親が子どもを懸命に育てているのも、考え方によっては「老後に自分の面倒をみてもらう」という見返りを期待した行為と捉えることもできるかもしれません。そのように考え始めると物事全てがさびしいという気持ちになりました。また、必要だから愛してあげるとい「条件付きの愛」と、愛しているから必要という「無条件の愛」の違いについても深く考えるようになりました。それまで意識してこなかったことの中にも愛があることを知ったり、自分自身を振り返って無条件の愛を受けていたことに気付かされたりと、多くの発見がありました。

大学では先生から顔も名前も認知されることもない一方通行の授業が多く、「大学の授業はこういうもの」と半ば諦めにも似た感情を抱いたこともありましたが、塩谷先生は私たち一人ひとりと向き合おうとされているのが伝わり、私も授業にも自分自身にも向き合うことができました。

塩谷 確かに見返りを求めるだけならさびしいですすよね。それだけだとやがてニヒリズムに陥り、すべてを疑うようになります。しかし人間には疑いきれない自分もあるし、疑いきれない感情もあり、不思議ですよね。大学の授業に対して、私も学生時代に武田

*武田さんの受賞作品は右記WEBアドレスから読むことができます。 http://www.aoyama.ac.jp/outline/effort/fd/info/detail_25.html

幼稚園より

卒園礼拝(年長組)

3/9 水

終業礼拝

3/13 月

卒園式

3/14 火

入園式

4/12 水

イースター礼拝

4/18 火

母の日礼拝

5/15 月



初等部より

卒業礼拝(6年生のみ)

3/8 水 9:10~9:40
米山記念礼拝堂
説教 小澤 淳一(初等部宗教主任)

6年生を送る礼拝

3/13 月 8:25~8:50
米山記念礼拝堂
奨励 大串 久美子(初等部教諭)

イースター礼拝

4/18 火 8:25~8:50
米山記念礼拝堂

お母さんへの感謝の集い

5/16 火 高等部PS講堂

中等部より

卒業礼拝

3/14 火 9:10~9:40
講師 藤井 和弘(南浦和教会牧師)

CF(クリスチャン・フェロシッパ)活動

4/6 木 校内清掃奉仕活動

春の教職員修養会

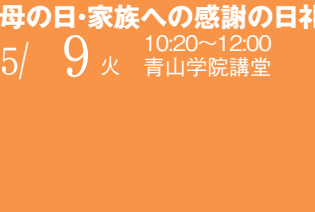
4/8 土 13:30~15:00
講師 村上 純子
(聖学院大学子ども心理学科准教授)

イースター礼拝

4/25 火 9:20~10:30
青山学院講堂

母の日・家族への感謝の日礼拝

5/9 火 10:20~12:00
青山学院講堂



表紙写真
中等部イースター礼拝(青山学院講堂)

シリーズ 地の塩、世の光

file 25

◎ 各界で活躍するクリスチャン



人にしてもらいたいと思うことを、
人にもしなさい。

6:31 Luke ルカによる福音書 第6章31節

白杉 由香理

東海大学医学部内科学系血液腫瘍内科学准教授
外来化学療法室室長
青山学院大学文学部教育学科卒
日本キリスト教団吉祥寺教会員

若い世代の方と話をしていると、健康と病気について学ぶ機会が極めて限られていると感じます。若い日に自分自身の身体について学び、自らの身を守る術を身に付けていただきたいです。

皆さんは「がん」という言葉を聴いて、どのようなことを思い浮かべますか。「耳にするのも恐ろしい」「絶対になりたくない」「芸能人に多いの?」といったところでしょうか。実は、現在の日本では国民2人に1人ががんに罹患し、さらに3人に1人はがんで死亡します。がんとはまさに「国民病」であり、残念なことに自分や家族の誰かが必ず罹患する、最も身近な病気の一つなのです。

私は、現在神奈川県伊勢原市にある東海大学医学部付属病院で、主に血液分野のがんを中心とした診療に従事しています。また、病院全体の患者さんが通院しながら抗がん剤の治療を受ける「外来化学療法室」の室長も兼任しています。がんの大きな発症原因が加齢ですから高齢の患者さんも多いのですが、白血病や乳がんなどは若年者も多く、20歳代の患者さんも多くいらっしゃいます。「近代ホスピスの母」と呼ばれた故イギリスの医師シリー・ソンドーズは、患者さんの苦しみを「全人的苦痛」(トータルペイン)と表現しました。私たちは病気になると、手術や治療の副作用などの「身体的苦痛」のみならず、突然襲ってくる死への恐怖(スピリチュアルペイン)や、仕事や学校に行けない悩み(社会的苦痛)や孤独感(精神的苦痛)なども

闘わなければいけないのです。ある日、外来化学療法室から少し離れた待ち合い椅子で、一人の若い女性の患者さんがシクシクと泣いているところに遭遇しました。今日は抗がん剤の治療日で、さっき主治医にも「頑張ります」と言ってしまったけれど、本当は化学療法室に入っただけで吐気かしてしまうほど治療が辛く嫌で、部屋に近づくこともできないというのです。彼女の心の痛みと悲しみがストーリーに伝わってきて、医師として今、彼女に何をしてあげられるだろうかかと真剣に悩みました。

「人にしてもらいたいと思うことを、人にもしなさい」という2000年前の聖書の言葉は、まるで今日の私たちにに向けて語られた言葉のようです。患者さんやご家族への説明、治療方針の決定と開始と、医療現場の日常はあまりに慌ただしく、悩み多く、待たなして進んでいきます。目の前にいる人が貴方自身だったら、今どうして欲しいかを考えて行動しなさいというイエスキ様の問いかけは、限りなくシンプルでありながら、医療の本質を突いています。医師として悩み・迷う時には、まるで雛鳥が親鳥の翼に潜り込むかのように、この御言葉に立ち帰り、励まされながら日々の歩みを続けていきます。

シリーズ 祈り

東日本大震災、熊本地震を受けて 祈りとともに

この世界を造り、わたしたちを守ってくださる神さま、わたしたちが自然の中で生き、自然と共に生かされていることに感謝します。

東日本大震災、熊本地震によって苦しむ人々のために、あなたからの助けと励ましを与您てください。

そして、わたしたちと自然が共にあなたによって造られたものであることを、忘れることがないようにしてください。

あなたはどのような時にもわたしたちから離れることなく、喜びや悲しみや苦しみを共にしてくださいませ。

神さま、傷ついている人々のために、行動を起こす決意をわたしたちに与えてください。

神さまがわたしたちに何を望んでおられるのか、日々の学びの中から知ることができすように。

主イエス・キリストのみ名によって。 アーメン。

「忘れられてしまうこと」「風化してしまうこと」それがつらいと被災された方々からうかがいました。熊本地震から1年、東日本大震災から6年、今も様々な痛み、困難との戦いが続いています。全国のキリスト教学校が加盟している「キリスト教学校教育同盟」の「東日本大震災を受けて」を基にしたこの祈りを私たちの日々の祈りとしながら、私たちひとりひとりが、痛みのなかにある方々と共に生きるために、今できること、今だからできることを求めつつ、共に歩んでいきましょう。

女子短期大学宗教主任 吉岡 康子

地の塩、世の光

THE SALT OF THE EARTH, THE LIGHT OF THE WORLD / MATT.5.13-14

WESLEY HALL NEWS

123RD EDITION

MARCH 1, 2017

一人も道で起こらなくて、
パンを裂いてくださったときに
イエスだと分かった次第を話した。

ルカ 24 - 35

CHRISTIAN BOOKS & CDs

シリーズ・キリスト教関連メディア紹介

『きみはとてもたいせつだよ!』

文：スー・ボックス イラスト：スージー・ボール 訳：おのくみ トン・ボスコ社

赤坂 洋子

幼稚園教諭

『きみの たいせつな ひとのことを かんがえてごらん。 パパ ママ… だいすきな ともだち。 してた? きみもとても たいせつな ひとだったこと。』

語りかけるような言葉で、このストーリーは進んでいきます。『きみ』は神様によって『きみがいい きみでなくてはいやだ』と創られた存在であること。どんな『きみ』であっても大切であること。神様は『きみ』の心の中にいて、『きみ』のことを何だって知っていること。優しいタッチの絵とともに次々と語りかけてくるのです。『きみ』は幼い子どもとくると描かれていますが、その言葉は大人の読み手の心にも温かく響いてくれるので、私の大好きな絵本の1冊です。

この絵本を年中児(4歳児)に読んだ時のことです。読み進んでいくうちに、子どもたちは語りかけられる言葉に惹き込まれていきました。そして「かけまわっている おとなしいこ にぎやかなの?」という箇所は きみは どんなの? という箇所ではそれぞれに「にぎやかなこ、か



な」「かわいいこ」「あかるいこだよ」など、自分の良いところを伝えます。『きみは とてもだちにとって たからものだよ。 かみさまも きみと ともだちに なりたいんだ』と読むと「えっ、ほんとうに?」「すごいね」と驚いていました。このような子どもたちの反応に、私はまた温かい気持ちになりました。一人ひとりが自分の良いところを知っていて、それを素直に表せることや、目には見えない「かみさま」の存在を自然に受け入れていることを感じられたからです。

最後の語りかけは『きみは たいせつな ひとって だれだとおもう?』です。ページをめくると「ほら それは きみのこと!」文字の横には本物の鏡が…そう、鏡に映った『きみ』が大切。子どもたち一人ひとりの顔の前に鏡を持っていく

と、子どもたちは覗き込みます。それまで語られてきた言葉の上に、神様が愛されている自分の顔を目にし、一樣に笑顔になる子どもたち。その心はきっと「私は大切」という安心感に満たされていたことでしょう。

子どもたちにゆつくりと読み聞かせても5分ほどの短い絵本ですが、その中には神様の大きな愛についてのメッセージが非常に分かりやすく、明確に示されています。絵本を通して、これからも子どもたちへのこのメッセージを伝え、また私自身もその愛に押し出されて歩む者でありたいと思います。

「神は愛です。愛にとどまる人は、神の内にとどまり、神もその人の内にとどまってくれます。」 (ヨハネの手紙一 4章16節)

編集後記

私たちをとりまく社会情勢にも、ひとりひとりの日常にも、変転があります。さまざまな変転の中にあっても、主イエスが十字架の死から復活され、私たちが希望に生きる者へとつくり変えてくださったことを心に刻み、日々を歩むことができよう、祈り求めます。3月には東日本大震災から6年、4月には熊本地震から1年となります。被災地をおぼえ、本学全体で祈りを合わせたいと思います。

(女子短期大学現代教養学科 成原 有貴)

Wesley Hall News 第123号

2017年3月1日発行

発行 青山学院宗教センター 学際宗教部長 シュー・ストール

東京都渋谷区渋谷4-4-25

TEL.03-3409-6537(ダイヤルイン)

(URL) <http://www.aoyamagakuin.jp/center/index.html>

(E-mail) agacc@aoyamagakuin.jp

編集 赤坂洋子(幼稚園教諭)

印刷 株式会社万社

CHRISTIAN ACTIVITIES CENTER NEWS
宗教センターだよ！

高等部より

卒業礼拝
3/8 火 高等部PS講堂
説教 五十嵐 成見(花小金井教会牧師)

イースター礼拝
4/17 月 高等部PS講堂
説教 伊藤 大輔(本多記念教会牧師)

特別礼拝
5/9 火 高等部PS講堂
講師 椎名 雄一郎(活水学院オルガニスト)

女子短大より

卒業礼拝
3/21 火 13:30~14:30 青山学院講堂
説教 吉岡 康子(女子短期大学宗教主任)

宗教活動委員会
オリエンテーションキャンプ
3/29 水, 30 木 伊豆天城山荘

始業礼拝
4/4 火 10:00~11:00 青山学院講堂
説教 吉岡 康子

イースター礼拝
4/17 月 12:35~13:05

チャペル・ウィーク
5/8 日, 10 水, 12 金 12:35~13:20

大学より

大学宗教委員研修会
3/2 木 10:00-15:00
講師 土井 健司(関西学院大学教授)
テーマ「キリスト教大学の社会福祉教育」

卒業礼拝
3/25 土
① 9:00~ ガウチャー記念礼拝堂
② 12:00~ ガウチャー記念礼拝堂

キリスト教推薦入学生
オリエンテーション
4/1 土 9:00~ ガウチャー記念礼拝堂

キリスト教概論 I
オリエンテーション
4/3 日 9:00~ ガウチャー記念礼拝堂
(相模原) ウェズレー・チャペル

新入生歓迎礼拝
4/7 全 13 木
(青 山) ガウチャー記念礼拝堂
(相模原) ウェズレー・チャペル

チャペル・ウィーク
5/22-26 全
(青 山) ガウチャー記念礼拝堂
(相模原) ウェズレー・チャペル

宗教センター・クルー・活動

聖書に親しむ会
わかりやすく、楽しく聖書が学べます。
(宗教主任担当)

キリスト教文化に親しむ会
文学、自然科学、社会問題、音楽などをキリスト教信仰との関わりにおいて語り合い、考え合います。
(宗教委員、クリスチャン・教員と宗教主任担当)

本部より

教職員新学年度礼拝
4/4 火 17:00~ ガウチャー記念礼拝堂

説教 あなたは復活を信じるか

ヨハネによる福音書 第20章1〜23節

「わたしは復活であり、命である。わたしを信じる者は、死んでも生きる。生きていてわたしを信じる者はだれも、決して死ぬことはない。このことを信じるか。」(ヨハネによる福音書 第11章25〜26節)

あなたは復活を信じるか
(ヨハネによる福音書11章)に示されているこ



にし たに こう すけ
西谷 幸介
大学宗教主任

とですが、マルタとマリアという姉妹の兄弟ラザロが病死し、主イエスは泣き崩れる姉妹たちの前で、そのラザロを甦らされました。そのとき主イエスが姉マルタに言われたのが、「わたしは復活であり、命である。わたしを信じる者は、死んでも生きる。生きていてわたしを信じる者はだれも、決して死ぬことはない。このことを信じるか」(11:25,26)という、お言葉でした。

「あなたは復活を信じるか」——これが、復活祭(イースター)において、すべての人に問われている問いです。この主イエスの問いかけをしっかりと受け止め、それにたいして「信じます」と応答し告白する者となるとき、私たちの人生にたいして神は特別な力と恵みを加えてくださると、私は信じています。

ラザロを復活させる前に問われた復活への信仰

そのことを私たちに悟らせることとして、皆さんに覚えていただきたいのが、今、主イエスが言われた言葉は、ラザロを甦らせる前にマルタに問いかけられた言葉である、ということです。そのことが伝えようとしているのは、復活というのはそれを目撃したり経験したりした後ではじめて納得し、信じますというようなことではなく、本質的に、これから私に起こることとして、希望と信仰と

をもって把握すべきことなのだ、ということです。たしかに主イエスはラザロを事実、甦らせることによって(11:44)、マルタとマリアに復活とは絵空事ではないのだということを示されました。しかし、主イエスがラザロの復活に先立って復活信仰を促されたということから私たちが理解しなければならぬのは、復活とは、私たちがまず、今、ここで、「生きていて…信じる」ことができ、またそうすべきものなのだ、ということです。ラザロの復活を「見たから信じる」のではなく、「見ないのに信じる」信仰が大切なのです(20:29)。

生きていて味わうことができる復活信仰の力

このように、主イエスは、生きていて見ないで信じる復活信仰を私たちに説き、促してくださいました。しかし、復活というのはどのように起こるのか、という疑問が絶えず私たちを悩ませるのも事実です。その問題については、どうすればよいのでしょうか。どうすることもできません。すべて神さまにお任せすればよいのです。余計な、もっとうしろい話を作り出す必要はありません。けれども、生きている限りの復活信仰の意味は私たちにはまったくわからずじまいである、というわけではありません。少いですがその力を前もって味わうことができます。

死んでいるようであるが、見よ、生きています

主イエスの「わたしを信じる者は、死んでも生きる」(11:25)という不思議な言葉をわかりやすく翻訳してくれているのは、使徒パウロの「死にかかっているようであるが、見よ、生きており」(IIコリント6:9-10語訳)という言葉です。これらの言葉が示しているのは、復活信仰に生きる者は、「死んだも向然だったのに、いや、生きています」という不思議な人生の体験をもち、そこであらかじめ復活の力と恵みを味わうことが許されている、ということです。スポーツに「敗者復活」というのがありますが、それに似ています。

他者のために命を献げたキリストへの神の究極の報償

イエス・キリストは人間の罪の償いのために死んでくださったのですが、神はそのキリストを甦らされました。聖書をよく読めば、このキリストの復活は明らかに人類の贖罪のためのその死にたいする神の究極の報償なのである、ということがわかります。十字架の死は犬死なわけではありません。それは人間として最高に高貴な、他者のための犠牲の死であったゆえに、神はその死に勇敢に立ち向かわれた御子にたいし「復活」という最高の栄誉をもって報いてくださったのです。唯一、

犠牲の死が死に打ち勝ちます。そして、私たちがイエス・キリストの救いを信じれば、誰でもその復活の姿にあやかる恵みが与えられるのです。ですから、救われた者はまた、感謝とともに、その後の生き方の中に少しでも他者のために生きるという主キリストの姿を映し出すべきなのです。そうした信仰をもつ者に、神は人生の途上であっても復活の喜びを先取りして味わわせてくださり、永遠のいのちの世界での憩いを約束してくださいます。

復活信仰がもたらす堅固な人生

そうした復活信仰は、私たちの生きた現実生活において、途方に暮れ、絶望に打ちのめされるような状況に陥っても、私たちをあわてさせず、落ち着かせ、希望を失うことなく、じっくりと再起と回復の道を歩ませてくれます。私たちがこの復活の信仰に堅く立つならば、私たちの人生は神に祝福され支えられた堅固なものとなるのです。

私たちはこのような復活の信仰を、復活祭の礼拝をととして、今一度強められたいと思います。「あなたは復活を信じるか」という主イエスの問いにたいして、皆さん、「信じます」と応答し告白しようではありませんか。

特集 あたらしい歩みへ——卒業

思い出がいっぱいの学院生活も、あとわずか。次のステージに向けて新しい一歩を踏み出す思いを、各部の方にききました。

Special Issue : A new step for something ; Graduate

感謝の日々

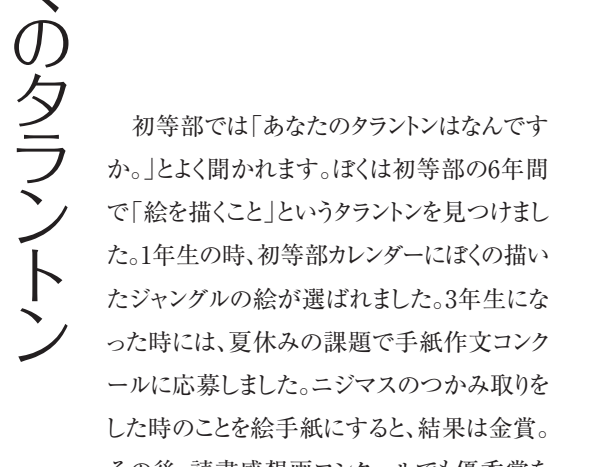


満員電車で揺られながら、息子の手を繋いで通った幼稚園生活も、まもなく終わりを迎えるようになっています。慣れない年少の頃、「ママがいい」と泣きじゃくられ、一体どうしたらよいのかと不安が募る日々でした。それも今では、遠い昔のように思い出されます。慌てずにゆっくりと時間をかけて、安心できるまで待ちましようと思ってきました。

春は桜やチューリップの花が咲く中、新入園児のかわいい子どもたちを迎え、夏には元気いばい水遊びをし、秋には大きな銀杏の木が黄色に色づく下で運動会を行い、冬にはお父様方がつくお餅つきで掛け声が響き渡ります。幼稚園では様々な行事を通して、自然の恵みに感謝しながら生活する喜びを子どもたちと一緒に学びました。一つ一つの経験が「実」を結び、年長になった息子にもたくましさを感じます。毎日の神様への祈りも、相手を思いやる心を育ててくれました。最近では帰りに、「きょうは○○ちゃんがかざでおやすみだったんだ」と気にかける日もあれば、「けんかしたけど○○くんにごめんねっていったよ」と少し照れくさそうに話す日もありました。信じる心を育み、共に生活する喜びを感じ、そして感謝できる人間へと成長させてくれたのだと思います。

神様のお導きの下、先生方、子どもたち、保護者の皆様と出会い、かけがえない時間を過ごせた事に感謝致します。まもなく年長組の子どもたちは、初等部生としての新たな一歩を踏み出します。幼稚園で過ごした三年間の宝物を胸に、この先も変わることなく、神様と共に子どもたちの成長を見守っていききたいと思います。

ぼくのタラント



初等部では「あなたのタラントはなんですか。」とよく聞かれます。ぼくは初等部の6年間で「絵を描くこと」というタラントを見つけた。1年生の時、初等部カレンダーにぼくの描いたジャングルの絵が選ばれました。3年生になった時には、夏休みの課題で手紙作文コンクールに応募しました。ニジマスのつかみ取りをした時のことを絵手紙にすると、結果は金賞。その後、読書感想文コンクールでも優秀賞をいただきました。ただただ好きなだけの絵でしたが、人に認められ賞をとったことで、「絵を描くこと」が神様からぼくに与えられたタラントなのだと思います。

ぼくは、去年のペンテコステに洗礼を受けたので、神様といつも一緒、どんな時も神様とつながっていると、今までよりも感じるようになりました。「わたしはぶどうの木、あなたがたはその枝である」(ヨハネ15:5)。ぼくの幼稚園の園歌にもなっているこの聖句は、読むと勇気が出てがんばろうという気持ちになります。

ぼくにはできないこと、苦手なことがたくさんあります。でも、絵を描き始めると止まらなくなり、時間を忘れてしまいます。人のタラントをうらやましと思うこともありません。しかし、色々なタラントの人がいていいのだから、ぼくは自分の祈りも、相手を思いやる心を育てていきたいです。ぼくにはまだ気づいていないタラントがあるかもしれません。これからも色々なことに挑戦して見つけていきたいです。

卒業という門をたたいて



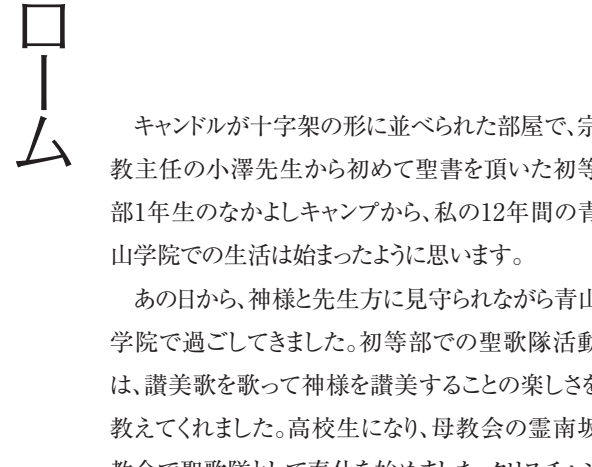
テストが始まるまであと1週間。ぼくは、おむろに自分の勉強机に向かい始めます。そして用意した本をめくり、1ページ目から読み始めます。その本を読むぼくの目は、真剣そのもの。そしてぼくの集中力とやる気は、誰にも負けません。机に向かっているぼくを見た時、みんなで口をそろえて言うでしょう。「勉強がんばってるね」と。しかしこの本には大小さまざまな枠があり、その中には、耳をねずみにかじられてしまった某猫型ロボットとメガネの少年が描かれ、ふき出しでのセリフや効果音があふれています。つまりぼくがこの時に読んでいたのは漫画なのです。漫画なんて普段は読まないのに、テスト前になるとなぜかつい読みたくなってしまふのです。

なぜテストの前になるとこのような行動をしてしまうのか。ある人に聞いてみたところ、もしテストの結果が悪かった時に自分に言い訳ができるようにこのような行動をとってしまうのだそうです。つまりぼくなどの人間は、つらい道と楽な道の二つがあった時、つい楽な道を選んでしまおうかなと生きているのです。そしてぼくもその一人です。聖書の中には「狭い門から入りなさい。滅びに通じる門は広く、その道も広々として、そこから入る者が多い。しかし、命に通じる門はなんと狭く、その道も細いことか。それを見い出す者は少ない。」(マタイ17:13,14)という聖句があります。この話は、イエス様が民衆に語ったたとえ話の一つです。そしてこの狭い門というのは、イエス様自身をあらわしています。つまりイエス様は、このたとえ話を通して、私たち人間にどんなつらい時でも、「広い門」という名の誘惑に負けず、ただ唯一の主である神のみを信じなさいという事を伝えたかったのです。

この中等部を卒業し、この先高校や大学、そして社会の中に挑むと今までの大きな苦労や試練、それともう誘惑がいくつもあはらずです。しかしその度にこの聖句を思い出し、常に狭い門に進んでゆける人になりたいです。

ちなみに、先日テストが終わりに帰ると、解放感に満たされ自由を楽しみました。テレビを見た、ゲームをしたり様々な事をしました。しかし漫画を観る事は、一度もありませんでした。テスト前やテスト中は、あんなに読みたかったのに……。やっぱり誘惑は、怖いなあ。

シャローム



キャンドルが十字架の形に並べられた部屋で、宗教主任の小澤先生から初めて聖書を頂いた初等部1年生のなかよしキャンプから、私の12年間の青山学院での生活は始まったように思います。あの日から、神様と先生方に見守られながら青山学院で過ごしてきました。初等部での聖歌隊活動は、讃美歌を歌って神様を讃美することの楽しさを教えてくれました。高校生になり、母教会の霊南坂教会で聖歌隊として奉仕を始めました。クリスチャンホーミに生まれた私にとって教会は青山学院同様、私の原点となっています。また、YMCAキャンプ、初等部宗教プロジェクトでのフィリピンの子どもたちが学校へ通うためのお手伝い、ハンディをかかえた方との活動は、社会や世界に私の目を向けさせてくれました。中等部-高等部を経て、将来は国際的な仕事に就きたいと思うようになりました。

楽しく学びの多い青山学院での生活でしたが、時には困難にぶつかる時もありました。しかし卒業を迎える今振り返ってみると、いつも幸せに包まれていたことに気がつきました。それは、いつも神様が側にいてくださったからです。日々の礼拝や初等部-高等部で受けた聖書の授業や、ABF(聖書交友会)の活動を通して神様を見つめ続けることができ、神様の愛は家族からの愛と同じで、私がどんなに情けない状態の時も見捨てずに見守ってくださる無償の愛なのだということになりました。

そのような神様からの愛に応え、生涯を通して「地の塩、世の光」であることを目指す者になりたいです。その第一歩として、イエス様と神様への感謝と希望に満ち溢れるイースターの時、気持ちを新たに青山学院大学での生活を始めたいと思います。

主と共に歩む人生

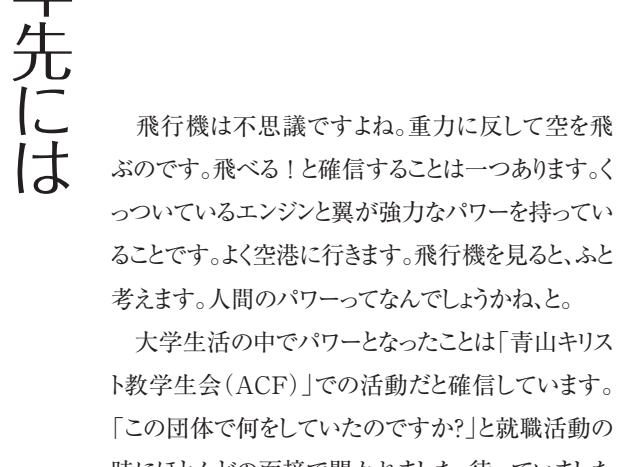


私はクリスチャンホーミで育ち、中学一年生の時に受洗しました。しかし、中高では学校の友だちにクリスチャンだとあまり言えませんでした。なぜならクリスチャンだと知られたら、嫌われるかもしれないという不安を抱いていたからです。そんな自分と向き合いたいと思い、キリスト教学校である青山学院女子短期大学への進学を希望しました。そして入学し、キリスト教と自分との関係を考える時間が与えられました。短大では、宗教活動委員会に所属しました。宗教活動委員会は礼拝奉仕や学内キリスト教行事での奉仕などが主な活動です。

そこから派生した学生主体のグループとして、「ろばのこ」という団体があります。「ろばのこ」では学生たちが集まり、共に賛美をし、祈り、聖書に耳を傾け、どのように感じたかを分かち合います。神様を中心とした交わりを、週1回程度実施しています。「ろばのこ」は異なる教派や、色々な考えを持っているメンバーによる集まりです。一人ひとり思いが違ってもあります。だからこそ、それぞれの考えを理解しながら、取り組むことに意味があると思っています。

青山祭では、「ろばのこ」のメンバーでチャペルコンサートをしました。その時に、大学でできたノンクリスチャンの友だちが見に来てくれました。友だちは何気なく、足を運んでくれたのかもありません。しかし、その行動が私には印象的で、神様を伝えることが少しでもできたのかなと喜びを感じました。神様は私たちのための経験を、神様の最高のタイミングで準備してくださっているのだと思います。卒業後も、私たち一人ひとりを生かしてください。主と共に歩みながら、神様の素晴らしい愛をたくさんの人たちに伝えていきたいです。

10年先には



飛行機は不思議ですよね。重力に反して空を飛ぶのです。飛べる！と確信することは一つあります。くっついているエンジンと翼が強力なパワーを持っていることです。よく空港に行きます。飛行機を見ると、ふと考えます。人間のパワーってなんだろうかと。大学生活の中でパワーとなったことは「青山キリスト教学生会(ACF)」での活動だと確信しています。「この団体を何をしてたのですか?」と就職活動の時にほとんどの面接で聞かれました。待っていましたと言わんばかりに満面の笑みで「聖書を学んで人間の一番大切な部分を育てていました。」と答えました。面接官の食いつきは尋常ではありません。良くも悪くもこんな学生がいるのか?という顔をしていました。こんな学生を育てたのがACFです。ACFは、何か一つのことをするわけでもなく、メンバーが決まっているわけでもなく、青山学院大学に通う学生全員が試合(活動)の先発メンバーだと捉えています。控え選手はいません。高校時代に吹奏楽部でレギュラー争いをしていた自分にとては不思議な世界でした。これはACFの大切にしていくスピリットも同じではないでしょうか。みんなが主役だよ。そんな活動も40年目を迎えました。賞や結果のために一つの活動をしていないのに、何年経っても皆の強いつながりがあります。次の節目である10年先がとても楽しみです。

私の人生設計では、32歳で海外支店に勤務する計画があります。どんな場所においてもACFの存在やACFで出会った仲間を忘れることはできないでしょう。学生という共通点は無くありませんが、神様に繋がる家族があることは生涯続きます。大学生活で大きく強く「力」を与えてくれたACF。「地の塩、世の光」として、パワフルに羽ばたきます。

やACFで出会った仲間を忘れることはできないでしょう。学生という共通点は無くありませんが、神様に繋がる家族があることは生涯続きます。大学生活で大きく強く「力」を与えてくれたACF。「地の塩、世の光」として、パワフルに羽ばたきます。